

Q.1

『小学社会』では、「問題解決学習」をどのように実現しているのですか。

A. その1
「問題解決学習」における「問題」

まず、「問題」という言葉について考えてみましょう。

社会科においては、この言葉には、大きく分けて二つの意味があると思います。一つは、「社会的問題」の意味として使われる場合です。「環境問題」とか、「少子・高齢化の問題」といった使われ方ですね。

もう一つは、一人一人の子どもに寄り添うかたちで、彼らにとって「気になる問題」とか「こだわりたい問題」、「切実な問題」など、個々の子どもの意識にのぼった個性的な「追究問題」の意味として使う場合です。「問題解決学習」での「問題」とは、まさにこの意味での「問題」なのです。

平成23年版『小学社会』を見てみましょう。下の紙面は、3・4年下巻の小単元「なくそう、こわい火事」冒頭の4ページです。


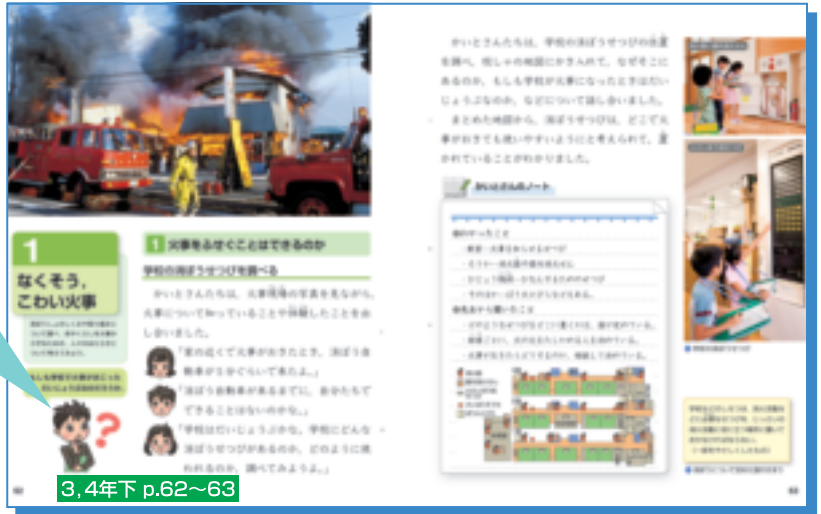
かいとさんは、激しく燃える火事現場の写真を見て、次のような「問題」を抱きました。『小学社会』では、これを「わたしの問題」とよんでいます。

もしも学校で火事がおこったら、だいじょうぶなのだろうか。



ここからこの小単元の学習が始まるのです。かいとさんの「問題」は、続いて市全体へと広がっていきます。

わたしたちの市では、火事はどれくらいおこっているのだろう。

1 なくそう、こわい火事

1 火事をおこすことはできるのか

学校の南がらぎつげ児童館へ

かいとさんたちは、火事現場の写真を見ながら、火事について知っていることや経験したことをお話ししました。

「家の近くで火事が起きたよ。消防車が来てくれてくれたよ。」

「消防車が来てくれてくれたよ。消防車が来てくれたよ。」

「学校は火事になったら、学校にどうなるのかな。消防車が来るのかな。どうやって火事をおこすのかな。調べてみようよ。」

3,4年下 p.62~63



わたしたちの市での火事の問題を調べよう

かいとさんたちは、図解館でホームページで、火事おこる市の火事の平均や人の話を、火事おこる市を調べました。

火事おこる市では、この火事現場、火事おこる市へ行ってきていますが、火事おこる市は、なくならないかな。調べてみようよ。

火事おこる市は、わたしたちが火事おこる市を調べようよ。火事おこる市を調べようよ。

3,4年下 p.64~65

A. その1 話し合い活動を重視しました。一言語活動の充実 ①

子どもたちが、社会的事象に対する自分自身の予想や考えを積極的に出し合い、おたがいの意見を聞き合うという場を随所に設定しています。自分の考えを相手に伝え、相手の意見を正しく理解するという力を育成しようという意図によるものです。

身近な環境問題

お宮について調べたかいるさんたちは、今日の日本の環境問題について話し合いました。

「国や会社が公害を減らさないように努力をしたらので、公害は少なくなったのかな。」

「でも、まだまだ水や空気がよくなっていないところは多いし、環境問題はなくなっていないだよ。」

「自然環境の手よごれのように、わたしたちが気づきずみや、よごれた水が原因で起きている問題もあるよ。」

「自動車のはいぶきは、環境への負担になるんだって。」

「自動車会社では、環境にやさしい自動車を開発しようとしているよ。」

「わたしたち自身が、自分たちの生きを見直す必要があると思うよ。」

5年下 p.84

環境問題に関するデータを3つの円グラフで示しています。左のグラフは「環境問題の原因」、中央のグラフは「環境問題の現状」、右のグラフは「環境問題の対策」を示しています。また、下部には子どもたちが話し合っている様子も描かれています。

6年下 p.12

A. その2 「たしかめよう」で表現力を徹底的に鍛えます。一言語活動の充実 ②

「たしかめよう」は、各小（中）単元末に必ず登場します。このページでは、それまでに身につけた知識や概念を、自分の言葉でもう一度再構成します。自分の見方・考え方が適切なものであるかどうかを、友だちとの話し合いによって互いに多面的にとらえ直し、最も効果的な方法を用いて表現する。この、思考と表現が一体となった学習活動によって表現力が鍛えられ、考える力が育まれていくと考えるのです。

たしかめよう 6年上 p.66~67

歴史新聞にまとめて話し合おう

ゆいさんたちは、これまで学習してきたことを歴史新聞にまとめてみました。そして、自分の意見を添えて、友だちと話し合うことにしました。

左の新聞の記事を読んで、新聞名と見出しや記事の要約をしましょう。また、新聞のタイトルや、あなたが考えた見出しを

たしかめよう

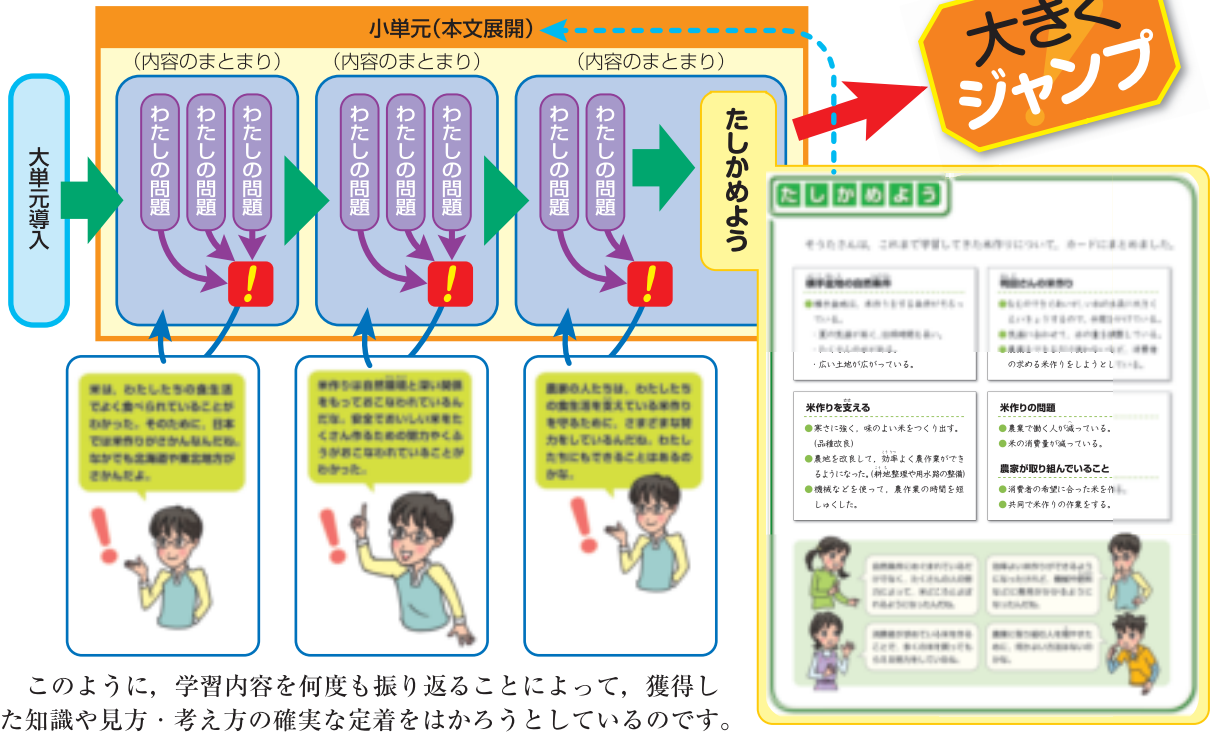
ほるかさんたちは、できあがったみんなふうすなのか、またたんげんしたごりかえりながら、話し合うことにしました。

3・4年上 p.20~21

地図には、公園、学校、商店街、住宅地などが描かれています。また、右下には色分けされた凡例が記載されています。

A. その1
基礎的・基本的な知識の習得について

『小学社会』では、一つの小単元が二重の「振り返り」によって構造化されています。「問題解決学習」の質問への回答でも登場しましたが、一つは「**わたしの見方・考え方**」、もう一つは「**たしかめよう**」です。これを図式化すると次のようになります。



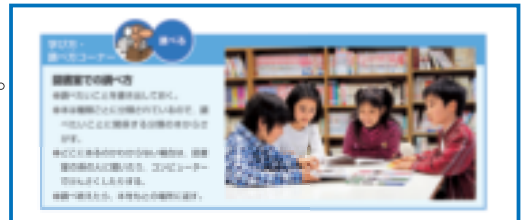
このように、学習内容を何度も振り返ることによって、獲得した知識や見方・考え方の確実な定着をはかろうとしているのです。

A. その2
基礎的・基本的な学習技能の習得について

調べたり、読み取ったり、表現したりする学習技能についてはどうでしょうか。

『小学社会』では、平成17年版から、「**学び方・調べ方コーナー**」を設定して、社会科で求められる技能の定着を図ってきました。今回の改訂では、このコーナーを大幅に拡張・充実させています。

「学び方・調べ方コーナー」には、三つの項目があります。「調べる」「読み取る」「表現する」の三つです。これらのコーナーを、全巻を通して、発達段階に配慮しながら系統的に配列しているのです。



A. 発展的な学習の例として、「大きくジャンプ」のページを特設しました。

「たしかめよう」の次のページに「大きくジャンプ」というページを設定しています。かならずしも学習指導要領の内容にとらわれることなく、多様な教材を例示し、「個に応じた指導」に対応しようとするページです。

ここでは、各単元での子どもの問題意識の質的な広がりや深まりをもとに、これまでに身につけた知識や技能を活用しながら探究していくという一人学習の例として、子どもの探究する姿を紙面で構造的に示しています。

なお、上記のような趣旨であることから、このページには指導時間を配当していません。



A. その1 一つ一つの紙面要素の性格付けを際立たせ、必要なときに、必要な情報が得られるようにしています。

平成 23 年版の『小学社会』には、既にご紹介した「わたしの問題」「わたしの見方・考え方」「学び方・調べ方コーナー」のほかに、次のようなものがあります。

「資料から考えよう」(アトム) …写真や絵、地図やグラフ、年表などの基礎的な資料を読み取るための見方や手立てを提示しました。

「やってみよう」(ウラン) …学習や生活の基盤となる知識をくりかえし使うように示唆したり、学習活動に関連して、本文が示す活動以外にチャレンジしてみたい活動や作業を示唆したりしています。

このように、各キャラクターの担う役割を明確にすることで、例えばアトムが登場していれば、「あっ、資料への目のつけどころを教えてくれているんだな。」ということがわかるのです。

6年上 p.42

5年下 p.89

マクロ	中国、韓国、インドネシア
中マクロ	オーストラリア、ロシア
ミクロ	タイ、インドネシア、ベトナム
ナノ	ロシア、オーストラリア
マイクロ	中国
ナノ	オーストラリア、ロシア

5年上 p.89

6年下 p.67

A. その2 ワイドな判型と、原則見開き2ページ1時間の構成

AB判(通常のB5判よりも左右が約3cm広い)というワイドな判型を最大限に生かし、子どもの興味・関心を喚起し、心情に訴える写真やイラストの充実を図りました。

6年上 p.12~13

1 日本の国土と人々の暮らし

5年上 p.2~3

また、おおよそ見開き2ページで1時間の授業という想定で紙面が構成されており、指導計画が立てやすくなっています。